



誹諧

部類

# 故人五百題

悉皆

叙



今浦子珠を得ると交諸誠のまじひハ心志あり  
 物あつて用ゆる時名珠と称し磨きたる時を  
 為名に比せしう名珠を得んと思へども  
 先今浦子の地理を志し其れを官一守人を  
 以て後其所に至る夜子我父多郎也其  
 在風浪子遊下志りも終極老師の教を信  
 誠言微中而塵家自在の思世の如きをこそ

師鳥反を靠治ひ一者即三年秋のり水と  
 時あかき其縁ふにありて以て入て破るをえとい  
 故也の事新子は少時より少くも飛猪の二字を  
 治ひしも今者記急や形人ありぬ積て今の  
 師宗其子獨を字とて誘掖のやめや形あり  
 治ありや又年あり一日曠旭治子其て書中  
 よるに一少冊を取きて与ふはとらんとい記  
 之縁の世と一十哲を抄めし一門徒之子の

記しある事久延孫守武家固の事とて四年の  
 歌を又石に記ししと神心を無常燃と記し孫子  
 之の之傳子今口その人の子、瑞珣琉球の  
 珠も傳つ海一詞宗年以是を梓子とて先  
 懐玉とありて初友にらんやあ記も心の中を  
 とあふに波を老童願子なむ傷め出と傳治を  
 然し頻子推轂をむるをいひ口録者初由真  
 多人子とて記ししと一書録あり孫あり

薩摩一すくさ夜江都ノ文を云とて其の形  
を乞に岐歌志の條へ寄りて治字を好むと  
彫工亦其のまに爲し好むに類辭あるん  
るを和成隨後の條の簡形とてぬく古人  
亦其歌の兼とあるの條に類するありしを  
抄に記すのも志すすの志とす

南總高田山曠地實之記是



凡例

○古人の章を其末のしに解録して其意を記すは  
極下の難歌形とのハ不分明の事多し一兼中難歌を  
其に於て其神學の事難を深にして其意を  
かゝたを考すて其爲るを歌の文中にせんといかりは  
俗より人傳すかゝるを考すて其意を記すは其意を  
諸集特許人の下に録すやまゝありて見ゆるの事年  
の林下に於て其意を記すは其意を記すは  
○其意を記すは其意を記すは其意を記すは

あゝ船乗の古例はあゝして其のまゝの妙は抑へ  
 けりて遊ぶ古人もあゝして其のまゝの妙は抑へ  
 ちのそとをたゞす其代も船をたゞすのまゝあゝして其  
 測海のたゞことを思ひ減へたもたゞりて其のまゝあゝす  
 なるまゝ大撰ちと云々

○ 葛河子古人数として其のまゝの妙は抑へ  
 掌櫃立園其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 鬼つゝ其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 ○ 祝言の先として其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 もあり其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ

○ 吉林波よりあゝ守り其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 流石なり船前日誌の妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 ○ 舟乗十之五舟の妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 足原人改味して古人の分もあゝして其のまゝの妙は抑へ  
 ○ 舟乗をたゞす其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 あゝ其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 ○ 歌子並て其のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 舟乗のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 足原のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ  
 舟乗のまゝの妙は抑へして其のまゝの妙は抑へ

○まして四事子の終子能源とつる部を不分類のまも前作  
りつらあるもの様かゝるまも

○まのめーくろ人の國所得あるまもえ東諸事其の申  
よと傳らるるまもえ其の意ありて所より申れりて

○まを執事とて申して志人とせし徳筆活潑なり一はく  
午未申其意不詳とあるまも得たてよと志く其の教も

○まに誌まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まのこし一まもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○其まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

○まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ  
まもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえまもえ

探歌の年安海の意歌工出案の一冊とす

○五々歌と云ふは、その母と子に於てある余歌

安て月録より丁付あるを其歌と云ふは、其意人等

五々歌の下を欠合て何月と引合ふ所なり

松崎菴主人

丁未歳  
癸卯



古人五百歌 春之部目録

山崎	初丁	様	二	糸山	三	神様	四
元日	四	神宮	五	まつり	五	神歌	五
神うすこ	五	まの鳥	五	神楽	五	神一層	五
まの夢	六	春半の川	六	今細の春	六	花のつら	六
江戸の春	七	福来軒	七	川松	七	大あく	七
はらゝめ	七	屠子孫	七	雑考	七	たは	八
喰つゝ	八	蓬菜	八	忌縁	八	書物	八

年玉	八	茶山	八	羽子	九	衣	九
九							
植物之部							
子の包	九	少和川	九	七種	九	草餅	十
茶葉	十	芹	十一	梅	十一	柳	十二
茶花	十二	下菊	十二	茶葉	十二	洋文	十四
桜	十四	木の葉	十四	菖蒲の葉	十五	のくし	十五
新玉	十五	五加木	十五	すまじ	十五	柳葉	十六
はやく	十六	安曇	十六	木瓜	十六	茶葉	十六
接木	十六	くし	十七	茶葉	十七	茶葉	十七
種おろし	十七	牡丹	十八	海棠	十八	連翹	十八
利米の包	十八	土子	十九	辛夷	十九	木蓮	十九

小麦	十九	女代	十九	豆歌	二十	梅葱	二十
豆	二十	山吹	二十	法	二十		
生類之部							
茶	二十一	猫の息	二十一	白魚	二十一	茶の葉	二十三
雛子	二十二	春鷹	二十三	雛子	二十四	雲雀	二十四
帰鳥	二十五	乙鳥	二十五	駒	二十六	鶯	二十六
喜鵲	二十六	蝶	二十六	三味	二十七	鳩	二十七
鏡	二十七	蛙	二十七	田螺	二十八	蛭	二十八
茗茶	二十八	うめ	二十八	茶の葉	二十八		
時儀之部							
七保姫	二十九	竹	二十九	茶の葉	二十九	海生	二十九
お茶長	二十九	綱川	二十九	茶	三十	お茶の包	三十





時作之部

東衣	九	裕	九	喜の廉	九	葵の廉	十
ちのち	十	卯の	十	早の	十	早の	十
夏の花	十一	夏の花	十一	灌餅	十一	夏の花	十一
新茶	十二	風煙	十二	みし	十二	喜の	十二
あき	十三	松急	十三	新	十三	欄	十三
乃の	十四	ちの	十四	水の	十四	下地	十四
ひの	十五	舟の	十五	五の	十五	ひの	十五
虎の	十六	土の	十六	夏の	十六	夏の	十六
夏	十七	夏の	十七	史の	十七	急の	十七
田	十八	田の	十八	早の	十八	喜の	十八
田	十九	田の	十九	史の	十九	早の	十九

帷子	十九	細周	十九	沙室	十九	雲の	十九
あつ	二十	夕立	二十	土用	二十	雲の	二十
涼	二十一	風の	二十一	笛	二十一	休の	二十一
涼	二十二	涼	二十二	新	二十二	心の	二十二
涼	二十三	涼	二十三	川	二十三	秋の	二十三
涼	二十四	涼	二十四	涼	二十四	涼	二十四
涼	二十五	涼	二十五	涼	二十五	涼	二十五
涼	二十六	涼	二十六	涼	二十六	涼	二十六
涼	二十七	涼	二十七	涼	二十七	涼	二十七
涼	二十八	涼	二十八	涼	二十八	涼	二十八
涼	二十九	涼	二十九	涼	二十九	涼	二十九

糸のた	五	ひつと	五	志のた	五	柿のた	五
糸のた	五	葉のた	五	牡丹	五	芍薬	五
糸のた	五	苔のた	五	けい	五	薊	五
糸のた	五	花	五	茄子	五	あひま	五
糸のた	五	葉葉	五	柑子	五	石合	五
糸のた	五	豆色	五	柑子	五	桜餅	五
糸のた	五	葉のた	五	あや先	五	露のた	五
糸のた	五	河津	五	草葉	五	蓮	五
糸のた	五	切のた	五	かたき	五	玉竹	五
糸のた	五	葉のた	五				
糸のた	五						

都而百六十四歌

花

古人百題おのり系

春之部

南總 腫池黄魚足 投合

花咲て七日影らんる林下り船  
 志はくを花のふあやあぬい  
 一僕とあくしありくはるんい  
 花のちりて浮世の風を眺らんり  
 花の風うらくまて雪の池  
 何事そ花を人の舌 刀  
 啄あふの枝まらうや花の中

芭蕉  
 季吟  
 徳  
 重軌  
 光雪  
 吉良  
 大草



寂に入を物引きせよたのまを  
酔ふりて下晴うりたのま  
隠家子嗣たるをわら母事  
もてあきすたのま歌中泣く声

聖久  
多輝  
大明  
印明

櫻

木のまをまけも繪も様う那  
唯中作さぬら定めぬ山かつら  
名のつらぬ所つらぬやばり様  
生えたる人ばあむちる様  
さぬら歌中都子牛の匂い

其角  
遊春  
大草  
酒堂

ひき折て人中うらまひ山さぬら  
又このねたをきし思ふ山はく  
世にうらまひをわらぬ山様  
抑もつらぬまをわらぬ山様  
山さぬら様をわらぬ山様  
片様を様地のゆき様  
あつたてし様のまをわらぬ山様  
朝さぬら山様をわらぬ山様  
山様をわらぬ山様  
山さぬら山様のまをわらぬ山様  
山さぬら山様のまをわらぬ山様  
山さぬら山様のまをわらぬ山様

一秩  
味山  
公奉  
咲山  
尚丘  
東園  
自櫻  
山川  
積輪  
杉風  
松地  
後地

糸様

山さくらちも小川のさくら  
是てさくら糸様はれ様はれ  
か入る人の言ふしおさくら  
乃ふ子此さくらもあやう山様  
と糸様をさくらさくらとて山様  
一はさくらさくらとて柳様の  
あもれさくら様のさくらさくら

糸様はれさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
糸様はれさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

智多  
希因  
麻文  
宇玉  
柳若  
石山  
乙州  
豊波  
吉文  
尺州

初様

咲さくらさくらの中さくらさくら  
乃さくらさくらさくらさくら  
あさくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
あさくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら  
あさくらさくらさくらさくら

乃の人のさくらさくら  
あさくらさくらさくらさくら  
あさくらさくらさくらさくら

乙州  
千那  
和及  
一英  
鬼費  
利豊

其角  
凉若  
史邦

遅様

おつられを返してつきて横江  
逢ふもの中に由向つておろし  
残居りてよま返さるるら

五篇  
山川  
紫衣

元日

元日 田毎の地を思ふ  
元日 子安童十乃指思  
元日 吹くは雀のよめか  
元日 和歌子あつてのたか  
元日 和歌子あつてのたか  
元日 和歌子あつてのたか  
元日 和歌子あつてのたか  
元日 和歌子あつてのたか  
元日 和歌子あつてのたか

新  
其角  
嵐香  
吉来  
守武  
忠知  
泰山  
石山

初空

初空 初空の初空の初空  
初空 初空の初空の初空  
初空 初空の初空の初空  
初空 初空の初空の初空

嵐香  
友新  
多輝

初日

初日 初日の初日の初日  
初日 初日の初日の初日  
初日 初日の初日の初日  
初日 初日の初日の初日

任口  
交考  
乙申  
利牛

初節

初節 初節の初節の初節  
初節 初節の初節の初節  
初節 初節の初節の初節  
初節 初節の初節の初節

景輔  
可風

初夜

我急のねはもこそ初夜  
枇杷の葉の影さう影さう影  
芝浦や東のこす初夜

西橋  
斜嶺  
起波

春夕

布衣しと為ぬらむや思の春  
春夕のすくさく影さう影

雪坡  
春夕

初春

初春風や四海はあそむる代  
春夕の風や春夕はも氏の影

宗張  
春夕

初曆

一年もあつたに春夕  
眼鏡さう影さう影

宗張  
乙虫

初夢

春夕の夢や春夕の夢  
初夢の夢や春夕の夢

宗張  
今徳  
春夕

春夕

春夕の夢や春夕の夢  
春夕の夢や春夕の夢

宗張  
春夕

春夕

春夕の夢や春夕の夢  
春夕の夢や春夕の夢

宗張  
春夕

春夕

宗張



草も亦もめでしきしり此のま  
ぬ夕の人もめつしきさる春  
西遊にこそれううては然のけ  
細暗藤すれさるりかた春

貞徳  
宗因  
休甫  
石明

美 九 けろ

誰人を燕着ておまするのま  
めんしめ物こそをくお美のけろ  
若のけろ信子助忠信はまか  
むの春連新公やたえう信  
若れまき抄り一強世まけれり  
投入り下まも御座一美のま

若  
嵐雪  
少吟  
文隣  
釣雪  
柳花

江戸 春

江戸の春  
海近一軸のまを江戸の春

具角  
作老  
号碎

福 春 料

福春草也にめては相出  
懸のあふたのまを福春料  
みんまのまを福春料

於凡  
扇雪  
春士

門 松

けろちのまを福春料  
おまのまを福春料

徳え  
具角  
吉来

大ゆえ

大ゆえを去山母のまゝ命の白ひは  
大ゆえを去山母と有なる遊ひの  
たゆまの癖は好む朝ふ夕まは

防川  
杉尾  
尚白

はる光

遠国子梅の白か舞のちりしは  
えうまの枝のたよりをめでたは

女形  
北枝

居る徳

居る徳さして小徳かむ娘の子  
いとをまわ居る徳好むも人いふ

五志  
奇号

難き貴

西のふもたは子 難うて難き貴  
反旅の難き貴をふりてたうた

山雀  
車庸

大著

大著の命をとり難くたうしは  
ゆふはしをいふて道由候うた

安藤  
知七

喰つ

あつてと喰つてあつては命の  
喰ひつゝは命の白ひの梅もの  
くらいつゝは命の味をそえそ免

山雀  
竹のえ  
柳屋

遠来

遠来は命をとり難き貴のまゝ命  
あつては命の白ひの梅もの  
あつては命の味をそえそ免

病  
山雀  
岩屋  
鬼号

美鱒

美鱒や鱒魚のやうに鱒魚を  
つらからけ師走のまをたぬりり

巴語  
和久

美神

美神はて結ばし文字の書きか  
大津橋の字のまをたぬりり

宗經  
孫

美玉

美玉に梅折るお世の菊の事  
まをたぬりり取かたせ世のやうに

言久  
言助

美山

美山やたふまひりておの産  
つらからけ師走のまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり

吉良  
柳吉  
黒吉

美羽子

美羽子のあまのまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり

本道  
利牛  
美羽

水祝

水祝はもめお世のまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり

其角  
沾圃

美

美はもめお世のまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり  
おん事やまをたぬりり

美羽  
美山  
美神

美はもめお世のまをたぬりり

春の

子の

子の道に都へ行くはなむら  
ひくうなほもよ死なぬのこ神子の  
會場を大和行るは子の

海  
去来  
年

小

五子日を括して終めて  
以形も和お格歳の  
若ういふ子の中を那お

白尼  
重校  
空

七種

七種や梅子や梅子の梅葉  
形は山吹の如き  
七くまの唱音の如き  
あめを梅子の梅の如き

梅香  
其角  
北坡  
枕

廿

一ツツセんてあつちをうめ  
てそそるの歌は自は形  
海極や廿廿あはく  
終つてひくうにさせる  
笑りたてみちを  
形と置候子廿廿の  
如極の廿廿の  
夕波の船の中  
宵の舟の廿廿の中

車庫  
乙由  
其角  
嵐吉  
猿  
我  
林也  
孤  
此

茶名

昔此茶種より多き賣りの茶名は  
白河加る江中味りりつらあつ  
茶名あつて茶名あつていさん  
七りて子つらあつていさん  
りあつて子つらあつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん

茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名

茶

大内物名起りくつらあつて  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん  
茶名あつていさん

茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名  
茶名

# 梅

梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 山崎の梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎

其年  
 去来  
 凡非  
 尚自  
 概隣  
 従古  
 猿雄  
 架ト  
 山

梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎  
 梅の香は凡のつやにのち梅の山崎

丹聖  
 空の白  
 空の白  
 一髪  
 空の白  
 急の  
 急の  
 急の  
 急の  
 急の  
 急の



四夷

下草

美草

山草の附しき若草野老松  
草梅の遠くは葉や心も愛  
たの草の葉を人より愛する  
花の葉を人より愛する  
下草和産のあきる草の下  
下草和産のあきる草の下

美草和産のあきる草の下  
美草和産のあきる草の下  
美草和産のあきる草の下  
美草和産のあきる草の下

其角  
蓮谷  
時言  
多江  
山舞  
風吟  
昌翁  
柳居  
太極

椿

椿は花のあきる草の下  
椿は花のあきる草の下  
椿は花のあきる草の下  
椿は花のあきる草の下

曲雅  
正秀  
利牛  
去来  
交考  
洞木  
桂士  
柳居  
多江  
西子石



紅梅

木  
の  
葉

紅梅や白の葉をさる梅さす  
かゝるは眼にや梅葉戸が  
紅梅の白あれてはの葉さす  
かゝるは子さく梅さすやう  
お梅や雪の似るあち那木の  
お梅の咲もちめめはあこい  
ちんつくハハハのんちん木のめ  
梅葉のあかき那も木の葉か  
梅葉をさる梅さすやう  
夏も梅さる梅さす木のめ  
木さる梅さる梅さす木のめ  
ちんちんちんちんちんちん

七重  
杉風  
此紅  
梅花  
白梅  
赤梅  
九北  
赤梅  
白梅  
白梅

萩の  
葉

葉  
の  
葉

種  
の  
葉

萩の葉のさる梅さす人の梅  
早道土や梅さすこの下は梅の葉  
梅さすや梅さす梅さすのさ  
梅さすや梅さす梅さすのさ

萩の葉のさる梅さす人の梅  
早道土や梅さすこの下は梅の葉  
梅さすや梅さす梅さすのさ  
梅さすや梅さす梅さすのさ

種は下梅さすのさる梅さす  
梅さすや梅さす梅さすのさ

七重  
杉風  
此紅  
梅花  
白梅  
赤梅  
九北  
赤梅  
白梅  
白梅

七重  
杉風  
此紅  
梅花  
白梅  
赤梅  
九北  
赤梅  
白梅  
白梅

七重  
杉風  
此紅  
梅花  
白梅  
赤梅  
九北  
赤梅  
白梅  
白梅

五加木

ちりぬく縮法あすふ五加木は  
ささやちてこことた子屋の念はれ

峽多  
扇重

す

終

山崎屋と何ゆら茶しすこれ  
あさくわのきりし強子甚きり船  
皇母親の宮方以志重母すこれ  
終子の屋のなさうゆら甚きり  
るすえうり也の活き此のまをさる  
埃よりあらはなをさる甚きり船  
傾城の血をらんさるすこれし  
船をさるにあさうゆら甚きり船  
投あしし小田の舟舟すこれし

菊  
聖多  
園也  
秋色  
舟多  
ら甚  
赤甚  
之道  
石明

鞆子

し

半人あしをさるすこれし  
鞆の早のあしをさるすこれし  
と母あしをさるすこれし

圃流  
危集  
石明

中夜の毎志屋おあしのさる  
古櫓も横もさるすこれし  
り船ももをさるすこれし  
かろししり船の向中  
はれししり船の向中

漁舟  
書指  
お文  
孫也  
支考

割

いさし京あしをさるすこれし  
さるす割もいさし京あしをさるすこれし

葛雀  
支考

木瓜

砂川の中を流るる木瓜の葉は  
木瓜の葉は生るる味は酸なり  
乃其に高つては酸や味をのり  
是の葉は木瓜の葉に似たり木瓜の葉

桔 酢  
山 梅  
川 豆

苦角

言はれし苦角は苦くはるる  
川流るる木瓜の葉は  
人々の物たるは苦くはるる  
はくはくとして火のぬきたる  
はくはくとして火のぬきたる  
中を流るる木瓜の葉は  
木瓜の葉の味は苦くはるる

苦 角  
一 苦  
苦 角  
苦 角

楸木

山に生るる楸木は  
口の影を楸木の葉に  
うやの葉は楸木の葉に  
うやの葉は楸木の葉に

其 角  
一 楸  
楸 木  
楸 木

智派

山に生るる智派は  
山に生るる智派は  
山に生るる智派は  
山に生るる智派は

出 芳  
心 化  
山 智  
山 智  
山 智

茶

山に生るる茶は  
山に生るる茶は  
山に生るる茶は  
山に生るる茶は

山 茶  
山 茶  
山 茶

草

種

草の草に中は草あり部一  
わはあわ小なうあつと一  
草の草わ戸りんつとすつと  
那の草赫葉と一と草ひつ  
草の草わすの草と葉は  
草はわ草わ草とある草の

其角  
史部  
草葉  
草葉  
石明

孫母ら一徳子ら一と  
草の草わすの草と葉は  
種すして種すよの草  
わつと草子草も草ら種

其角  
無石  
尚尔  
草種

桃

桃の草は桃人を一桃の  
草の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は  
桃の草わすの草と葉は

其角  
北斐  
孤  
木  
桃  
利  
氣  
柳  
芦  
石明

海棠

海棠花の咲く時  
かきつばたの鳴く声  
あけぼのの光  
かきつばたの鳴く声  
あけぼのの光  
かきつばたの鳴く声  
あけぼのの光

重頼  
酒中  
てせ  
春南  
尚公

連翹

連翹花の枝  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

柳春  
梅乃

梨の花

梨の花の香  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

交考  
岩伴  
尚公

李子

李子の香  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

尚白  
通雪

辛夷

辛夷の花  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

尚白  
巴久  
通雪

赤蓮

赤蓮の花  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

子那  
尚白

芍薬

芍薬の花  
さくらんぼの実  
さくらんぼの実

仙代  
岩東  
春久

苗代

苗代を又へおる敷の加千う那  
那うらちたう那良いも那う那  
苗志那物案在の塔のえある受  
え渡そ那のめまう 苗代田  
ありらるのいそめえのすうい  
苗代や仁王の御那定の院  
那うら子世母衣まらにあう  
派う那やあうらう子那つあう  
猿の白毛に苗代えやいあう  
苗代や友のあうら折那う  
那うらう那うらうらうらう  
苗志那物案在の塔のえある受

支考  
許六  
朱迪  
支考  
子英  
四塔  
而得  
東邦  
岩白  
松川  
松若  
名破

は欵

物案在の塔のえある受  
は色しや焼那うをあは欵う那  
早うらうらうらうらうらう  
一尺のうらうらうのあやわう  
端うらうらう道那うらうの文う

岩白  
中う  
正我  
結然  
西海

胡葱

胡葱やうらうらうらうらう  
安うらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう

東邦  
支考

は

うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらう

支考  
知中  
心考  
二海



# 其島

其島の嶽子巒巒すく椽の影  
 うらみす柳のしづかに影のち  
 其島の身をあらうはりに影の  
 うらみす人あはれと見す影の  
 其島は崖あつてさう影の  
 うらみす影あつて影の  
 其島の影にあつて影の  
 うらみす影あつて影の  
 其島の影にあつて影の  
 うらみす影あつて影の

其島  
 嶽子  
 巒巒  
 すく  
 椽の  
 影  
 うら  
 みす  
 柳の  
 しづ  
 かに  
 影の  
 ち  
 其島  
 の身  
 をあ  
 らう  
 はり  
 に影  
 の  
 うら  
 みす  
 人あ  
 はれ  
 と見  
 す影  
 の  
 其島  
 は崖  
 あつ  
 てさ  
 う影  
 の  
 うら  
 みす  
 影あ  
 つて  
 影の  
 其島  
 の影  
 にあ  
 つて  
 影の  
 うら  
 みす  
 影あ  
 つて  
 影の  
 其島  
 の影  
 にあ  
 つて  
 影の

其島は二林五人の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影  
 其島は影の影  
 うらみすの影の影

其島  
 嶽子  
 巒巒  
 すく  
 椽の  
 影  
 うら  
 みす  
 柳の  
 しづ  
 かに  
 影の  
 ち  
 其島  
 の身  
 をあ  
 らう  
 はり  
 に影  
 の  
 うら  
 みす  
 人あ  
 はれ  
 と見  
 す影  
 の  
 其島  
 は崖  
 あつ  
 てさ  
 う影  
 の  
 うら  
 みす  
 影あ  
 つて  
 影の  
 其島  
 の影  
 にあ  
 つて  
 影の  
 うら  
 みす  
 影あ  
 つて  
 影の  
 其島  
 の影  
 にあ  
 つて  
 影の





雀子

春鷹

雀のあやもあはれらるるのうま  
 葉にちのめいしほれあはれし  
 しくめいあやめいあはれし 雀の枝  
 人の歌のうまはれしは雀の子  
 雀の子あはれらるるに雀の影  
 雀のうまはれしは雀の子  
 雀のうまはれしは雀の子  
 雀のうまはれしは雀の子  
 雀のうまはれしは雀の子

雀  
 鳥竹  
 櫻市  
 其角  
 其角  
 其角  
 其角  
 其角

雛子

雛のあやもあはれらるるのうま  
 葉にちのめいしほれあはれし  
 しくめいあやめいあはれし 雛の枝  
 人の歌のうまはれしは雛の子  
 雛の子あはれらるるに雛の影  
 雛のうまはれしは雛の子  
 雛のうまはれしは雛の子  
 雛のうまはれしは雛の子  
 雛のうまはれしは雛の子

雛  
 鳥竹  
 櫻市  
 其角  
 其角  
 其角  
 其角  
 其角

雲

可憐

春中やまのりもたけの峰ひたし  
あまのこをたけくくあまのこをたけ  
田舎あや作向くはく舞ひたて  
後船やあまのこをたけの瀬のり  
那まきしも風をたけかきし舞ひ  
子や舞世にまはるのりあま  
表り風子力のりもたけくくあ  
之りあまをたけえとあまのこを  
風をたけくくあまのこをたけ  
あまのこをたけくくあまのこを  
あまのこをたけくくあまのこを  
大晴れあまのこをたけくくあ

羽  
許  
実部  
孤  
松風  
雲  
情  
春田  
柳花  
雪破

帰雁

春中やまのりもたけの峰ひたし  
あまのこをたけくくあまのこをたけ  
田舎あや作向くはく舞ひたて  
後船やあまのこをたけの瀬のり  
那まきしも風をたけかきし舞ひ  
子や舞世にまはるのりあま  
表り風子力のりもたけくくあ  
之りあまをたけえとあまのこを  
風をたけくくあまのこをたけ  
あまのこをたけくくあまのこを  
あまのこをたけくくあまのこを  
大晴れあまのこをたけくくあ

羽  
許  
実部  
孤  
松風  
雲  
情  
春田  
柳花  
雪破

云々

不道の道もあやしい世に  
山の峰に云々をうす  
鎌倉の街を這をのす  
はさくらもあやしい  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々

其の  
尚ふ  
金屋  
乙々  
一葉  
乙中  
柳生

物々

何事をも能くする  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々

乙々  
乙中  
柳生  
乙中  
柳生

響々

々々

秋の風もあやしい  
乙々の言葉は  
あやしいと云々  
乙々の言葉は  
あやしいと云々

乙子  
乙中

# 蝶

おこよしき蝶もいせむぬる蝶  
 猶か子のく人のく人川越る山  
 蝶のあふくはるきあひくらの外  
 まき御子いよく蝶の胡蝶う形  
 百のあふく人かきまはるこま  
 余手紙の蝶もあまのなまりか  
 枝まのあふくつらくつら樹葉うを  
 てくく年風のたれぬまきまうは  
 思ひまきても舞金まきまきま  
 歩路あまの蝶のあまのまきま  
 湖く十所あふくうり胡蝶のう形  
 野の蝶もあふくの蝶もあふく

其角  
 蝶来  
 気堂  
 堂主  
 衣以  
 木因  
 一概  
 舞文  
 冬後

# 虫

虫の月の何りは虫くしてを如命ま  
 虫の月のみまらして虫かやあまのま  
 虫の月のみまらして虫かやあまのま  
 虫の月のみまらして虫かやあまのま

虫考  
 虫考  
 虫考  
 虫考

# 蜂

蜂の月の何りは蜂くしてを如命ま  
 蜂の月の何りは蜂くしてを如命ま  
 蜂の月の何りは蜂くしてを如命ま  
 蜂の月の何りは蜂くしてを如命ま

蜂考  
 蜂考  
 蜂考  
 蜂考

# 蜆

蜆の月の何りは蜆くしてを如命ま  
 蜆の月の何りは蜆くしてを如命ま  
 蜆の月の何りは蜆くしてを如命ま  
 蜆の月の何りは蜆くしてを如命ま

蜆考  
 蜆考  
 蜆考  
 蜆考

蛙

るの蛙 虎あまの形より多形を  
高かき蛙あまの守や守のりあ  
おほくぬ力こも母こころの形  
苔まのたを成るもつりて蛙水  
河まのたを成るもつりて蛙水  
軸つくりや中ひ定らうつりて  
サ達底子せはて常の蛙うま  
橋より法人よきさるりりりり  
時りく花の形あせりかりりり  
もあつりあつて流るく蛙水  
こおあまのあえりあらりりり  
この時あまあまのまのま

其角  
大44  
本南  
北城  
下州  
言え  
庭を  
柳花  
麻文  
多録  
石録

田

螺

蛙

近岸の子端あまのりりりりり  
たぬくと泡や吹の田にりりり  
ぬりりりりりりりりりりりり  
苔たええりりりりりりりりり  
湖を螺のあまのりりりりりり  
螺よりりりりりりりりりりり  
まのりりりりりりりりりりり  
ぬりりりりりりりりりりりり  
何のりりりりりりりりりりり  
石録りりりりりりりりりりり

猿雄  
四膳  
十文  
ま天  
ま松  
常良  
中吉  
志仙  
高白  
石録  
石録

名 能

能の子の能くさるる一境の事  
一のり終るるにちほくお能く  
境を命くちあむお西く  
境はち終るも入るお能く

土草  
圃え  
名者  
境子

うねお

うねおの影おあきくし  
お代士のくおおきく境の事

名歌  
刑に

名 刺

刺乃日の境をくく蘇の事  
刺乃名く一刺や蘇の境の事  
刺乃名く一刺の事名く一刺  
刺乃名く一刺の事名く一刺

名歌  
刺に  
玉子  
名歌

名 保

保乃日の境をくく蘇の事  
保乃名く一刺や蘇の境の事  
保乃名く一刺の事名く一刺  
保乃名く一刺の事名く一刺

名歌  
保に

おつら

おつらの境をくく蘇の事  
おつら名く一刺や蘇の境の事  
おつら名く一刺の事名く一刺  
おつら名く一刺の事名く一刺

名歌  
おつら  
名歌

らあ

らあの子の能くさるる一境の事  
一のり終るるにちほくお能く  
境を命くちあむお西く  
境はち終るも入るお能く

名歌  
らあ  
名歌

糸

糸の糸は糸を糸の糸  
糸の糸は糸の糸の糸

糸  
糸  
糸

た

たのたはたはたはた  
たのたはたはたはた

た  
た  
た

糸

糸

糸の糸は糸の糸の糸  
糸の糸は糸の糸の糸

糸  
糸  
糸

糸

糸の糸は糸の糸の糸  
糸の糸は糸の糸の糸

糸  
糸  
糸



地 存 致 如

猫の意や心付 望乃抄等ら由  
種多し支那の如く形も多し種く  
抄等らくも其の道所より其の  
名所の如く多し種多し種多し  
味も其の如く多し種多し種多し  
深海の如く深り多し種多し種多し  
夕風多し種多し種多し種多し  
之の如く多し種多し種多し種多し  
大解の如く多し種多し種多し種多し  
梅の如く多し種多し種多し種多し  
如り多し種多し種多し種多し  
地多し種多し種多し種多し

其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の

鳳 中 入 美

本より抄多し種多し種多し種多し  
中多し種多し種多し種多し種多し  
抄多し種多し種多し種多し種多し  
如多し種多し種多し種多し種多し  
本多し種多し種多し種多し種多し  
鳳多し種多し種多し種多し種多し  
中多し種多し種多し種多し種多し

其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の

美入の温鏡くくくくくくくく  
如多し種多し種多し種多し種多し  
美入の如く多し種多し種多し種多し  
中多し種多し種多し種多し種多し  
美入の如く多し種多し種多し種多し  
中多し種多し種多し種多し種多し  
美入の如く多し種多し種多し種多し

其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の

除雪

雪の折はかききふ除雪の  
跡のなすく雪さきも一むこむの  
跡のなすく雪さきも一むこむの

まき  
乙中

暖

雪の中をぬくぬく白樺を  
ぬくぬく雪の中をぬくぬく

文軒  
沈足

暖

あきくくにあきか桂のまゆを  
暖きまゆけくくぬのぬくぬく

楓舟  
秋風

焼雪

雪のり焼ゆく環か風の来  
雪かきく雪さきのぬく焼ゆ  
すくすく雪かきく雪さきのぬく

松林  
雪さき  
乙中

雪

雪かきく雪さきのぬく焼ゆ  
雪かきく雪さきのぬく焼ゆ

乙中  
真角  
十竹  
雪さき  
松林

残雪

雪かきく雪さきのぬく焼ゆ  
雪かきく雪さきのぬく焼ゆ

乙中  
真角  
十竹  
雪さき  
松林

雪風

雪かきく雪さきのぬく焼ゆ  
雪かきく雪さきのぬく焼ゆ

乙中  
真角  
十竹  
雪さき  
松林

春 尾 解 雪

春風和まの年、ゆくゆくたれ  
まのまの年、ぬるまの年、まの年  
けしのけし、春風ぬるく、影け  
まの風、まの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
まの風、和の年、ぬるまの年、ぬるまの年  
まの風、和の年、ぬるまの年、ぬるまの年  
まの風、和の年、ぬるまの年、ぬるまの年

木守 許六 若白 執人 聖之 鬼貴 石切 沽終 千南 彦彦 北坡 石切

春 ぬ

春風和の年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年  
ぬるまの年、ぬるまの年、ぬるまの年

海 杉風 荊口 兼山 春守 友五 為五 在好 崎若 彦彦 彦彦 石切

春  
る

春  
の  
日

是よりくししははのくを  
春のやをてあかちう人あはま  
ありあをや一はくみりく来ぬのを  
余九るのくしはあははのを  
あしきあか浮坤もき樹 舟  
春のやをを能料頭わき舟のあを

春の日のあを茶のま白田いあああ  
樹の中のものあはくまはく来ぬの  
春の日のあを御あをまあまあ  
春の日のあをあてあはくもあは  
はく乃見やあまああああああ

支考  
一笑  
あは  
巴あ  
子ま  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは

春  
の  
夜

は  
る  
の  
夜

春  
の  
夜

春ののぬりあを茶のま白田いあああ  
あはくもあをのああああああ  
はく乃見やあまああああああ

法々のらあかあまあて来ぬの  
山の雲をちうあはくしはあのく  
あはくもあをのあまああああ

あはくもあをのあまああああ  
あはくもあをのあまああああ  
あはくもあをのあまああああ  
あはくもあをのあまああああ

あは  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは  
あは

春  
乃  
四

春の雪や木乃ゆる世の人の心を  
ゆきゆきあそび春の雪をみるも  
春の雪や木乃ゆる世の人の心を  
春の雪や木乃ゆる世の人の心を  
かえりしころをぬくまを思ふ

法延  
許六  
兼山  
一喜舟  
岩井

春  
の  
あ

春のあそびあはれし人なほ  
あそびあはれし人なほ

鬼江  
亦

水  
の  
あ  
そ  
び

水乃川やあそびあはれし人なほ  
水乃川やあそびあはれし人なほ  
水乃川やあそびあはれし人なほ  
水乃川やあそびあはれし人なほ

虫籠  
里  
智

海  
の  
あ  
そ  
び

海乃川やあそびあはれし人なほ  
海乃川やあそびあはれし人なほ  
海乃川やあそびあはれし人なほ  
海乃川やあそびあはれし人なほ

其角

山  
の  
あ  
そ  
び

山乃川やあそびあはれし人なほ  
山乃川やあそびあはれし人なほ  
山乃川やあそびあはれし人なほ  
山乃川やあそびあはれし人なほ

葉嶺  
山

空  
の  
あ  
そ  
び

空乃川やあそびあはれし人なほ  
空乃川やあそびあはれし人なほ  
空乃川やあそびあはれし人なほ  
空乃川やあそびあはれし人なほ

春  
之  
風

雪  
の  
あ  
そ  
び

雪乃川やあそびあはれし人なほ  
雪乃川やあそびあはれし人なほ  
雪乃川やあそびあはれし人なほ  
雪乃川やあそびあはれし人なほ

嵐  
雪  
梅

陽 光 糸 遊

この糸は子の子糸を子とて其子行  
陽光の糸は子糸の糸とて其子行  
かたは糸の糸とて其子行  
陽光の糸は子糸の糸とて其子行  
この糸は子の子糸を子とて其子行  
糸の糸は子糸の糸とて其子行  
かたは糸の糸とて其子行  
陽光の糸は子糸の糸とて其子行

計六  
去等  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸

二口糸 神 子 被 者

親の思つた糸は二口糸この糸  
糸の糸は子糸の糸とて其子行  
かたは糸の糸とて其子行  
陽光の糸は子糸の糸とて其子行  
この糸は子の子糸を子とて其子行  
糸の糸は子糸の糸とて其子行  
かたは糸の糸とて其子行  
陽光の糸は子糸の糸とて其子行

糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸

御忌

御忌の日に腰のくちくち物置ひ  
たくらぬお徳の言や御忌の種  
の御忌に 掃きつるお徳の種

而得  
志高  
素徳

理

樂

理樂舎や樂舎を合さる理樂の言  
樂を吹らふおし 掃きん 像  
おとのお徳あり 掃きん 像  
掃きん 像 掃きん 像  
末御を掃きん 掃きん 掃きん  
有るを掃きん 掃きん 掃きん  
尻の子の尻を掃きん 掃きん  
掃きん 掃きん 掃きん 掃きん  
掃きん 掃きん 掃きん 掃きん

掃きん  
掃きん  
掃きん  
掃きん  
掃きん  
掃きん  
掃きん  
掃きん

御忌

那

り  
日

御忌の日に腰のくちくち物置ひ  
たくらぬお徳の言や御忌の種  
の御忌に 掃きつるお徳の種

而得  
志高  
素徳

永おとや御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言  
御忌の言や御忌の言

御忌  
御忌  
御忌  
御忌  
御忌  
御忌  
御忌  
御忌





以 乾

曲 入

古柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは  
柳の泥子志出くはくは

以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾  
以 乾

曲入の曲入の流はくは溝入  
川下に立くまを地さめり  
曲入の折ぬく風はくはくは  
流はくはくはくはくはくは  
流の流を流はくはくは

曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入  
曲入

長 采

細 打

不 采

長采の長采の流はくは溝入  
川下に立くまを地さめり  
長采の折ぬく風はくはくは  
流はくはくはくはくはくは  
流の流を流はくはくは

長采  
長采  
長采  
長采  
長采  
長采  
長采  
長采  
長采  
長采

細打の細打の流はくは溝入  
川下に立くまを地さめり  
細打の折ぬく風はくはくは  
流はくはくはくはくはくは  
流の流を流はくはくは

細打  
細打  
細打  
細打  
細打  
細打  
細打  
細打  
細打  
細打

不采の不采の流はくは溝入  
川下に立くまを地さめり  
不采の折ぬく風はくはくは  
流はくはくはくはくはくは  
流の流を流はくはくは

不采  
不采  
不采  
不采  
不采  
不采  
不采  
不采  
不采  
不采

春入

春入を言ふも春の旅の如  
く子入や春の志あつて春の  
春入の標貝の如く春の如

宗園  
おひ方  
昌治

は け  
は

けま日を近江の人を神に  
也のまを河をささぐ春の  
けま日を神にささぐ春の  
けま日を神にささぐ春の  
けま日を神にささぐ春の  
けま日を神にささぐ春の  
けま日を神にささぐ春の

山川  
梅江  
梅江  
梅江  
梅江  
梅江  
梅江

春の神にささぐ春の如  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の

鬼費  
之道  
而解

春の神

春の神にささぐ春の如  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の  
く春の神にささぐ春の

山川  
巴都  
山川

晴るに山は春も老くわすまの穂  
晴ぬくの流るるもて出たはた  
衆船の結きよしはく穂ま  
難題のまらぬれを也を特ま  
本瓜あまき穂く人さく穂あ  
田くちんぬも根もさふれ  
まらぬて苗代るのまらぬ  
るの雲穂まらぬとまらぬ

共伸  
孫木  
字名  
山名  
山名  
山名  
山名

時

古人ふる時節ぬるま

夏之部

南院 暁如 龜足 授合

あまのすすまほくわあとの  
ほくまはまほくわあとの  
あまのすすまほくわあとの  
あまのすすまほくわあとの  
あまのすすまほくわあとの  
あまのすすまほくわあとの

芭蕉  
其  
嵐  
公  
文

昔の種子那くあきほくく  
の事と笑く有年もりり部一  
おのれのあやうを知らず  
あつ屋中めをすけ子時  
何となくいふかたそゆも  
ゆとあはれぬのまにるり  
子歌をきかす  
蜀道難し和すの名の事  
たれやうたをゆもあはれ  
時とる面のあしを  
杜鰲 龍のまをれぬ  
あつ屋中めをすけ子時

守衣  
暨一  
室固  
首宮  
尚尔  
産新  
家川  
史部  
江化  
明球  
好意

あつ屋中めをすけ子時  
雲の片の守をくおろ  
時とる面のあしを  
たれやうたをゆもあはれ  
杜鰲 龍のまをれぬ  
あつ屋中めをすけ子時  
蜀道難し和すの名の事  
たれやうたをゆもあはれ  
時とる面のあしを  
杜鰲 龍のまをれぬ  
あつ屋中めをすけ子時

乙中  
能存  
作未詳  
曲變  
利牛  
西里  
交考  
杉凡  
明亭  
乙中  
末周  
凡矣

たつこゝの雲のそらにやうに  
あつたやうに雲の四角の雲  
つらな雲よりつらな雲の替  
その神子運ねるやうに  
向つたやうにやうに  
つらな雲の替へるやうに  
つらな雲の替へるやうに  
つらな雲の替へるやうに  
つらな雲の替へるやうに

此の  
緯度  
杜英  
柳花  
名詞  
七の  
已終  
石明  
物事  
此處

軍古

老

つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに  
つらな雲を時かきまゝに

つら  
つら  
つら  
つら  
つら  
つら  
つら  
つら

つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時  
つらな雲のよき雲を時

つら  
つら



鶯

練

小鳥  
九  
葉

鶯鶯如く人の心くちを住ぬ  
あはれいともなくともあきぬ鶯  
鶯鶯のあはれもあはれぬ  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯

あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯

鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯

鶯

鶯鶯如く人の心くちを住ぬ  
あはれいともなくともあきぬ鶯  
鶯鶯のあはれもあはれぬ  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯  
あはれもあはれぬ鶯鶯

鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯  
鶯

そのくわて又其れあうは筆の  
抄よりほり直き流るるかたか  
筆字の中五方のほりは子其方の思

筆、  
名、  
其、

編 協

羽 機

編 協 子 其 方 思  
かたよりうき形くもあま協 のこ  
このあう中協の舊協子に以てあう  
協 協 の 筆 字 中 加 協 其 協  
このあう中協に生協 羽 の 名  
協 子 其 方 思  
協 子 其 方 思  
協 子 其 方 思

抄、  
名、  
其、  
筆、  
協、  
其、  
筆、

了 鼻

ひ 交

子 子

虫 虫

了 鼻 子 其 方 思  
生協其方の家とて協 土 協

其、  
筆、

遠あよりひ協下の鼻の交  
協のあうより協とてあうを 鼻  
協 近 て 志 協 其 協 協 協

鼻、  
協、  
筆、

ほりぬりわうの協其のりくまて  
子子乃らう中金急の鼻のは思

其、  
筆、

から思てう鼻の筆協を其方の協  
筆の流もあはれ一筆の協其ひ  
協の筆を其方の門の協やみひを

其、  
筆、



# 蠅

# 蚊

蠅亦て海にありありはるるに  
 世の中を舞うやみよの舞  
 甚すはるるやみよの舞の羽  
 の所生や世に言ひけらしの  
 蠅亦て海にありありはるる  
 物つらひの世に舞の舞や  
 急伸や蠅の老のりつら  
 櫛のありや蠅の老のりつら  
 はるるを動るに蠅のちるる

小那  
 竿之  
 牧之  
 久之  
 史部  
 秀南  
 愚佐  
 急士

草取の蚊の血が如く  
 赤く子腹入り  
 一 一 一

急士  
 愚佐  
 秀南  
 史部  
 久之  
 牧之  
 竿之  
 小那

# 蚊

# 蚊

蚊亦て海にありありはるるに  
 世の中を舞うやみよの舞  
 甚すはるるやみよの舞の羽  
 の所生や世に言ひけらしの  
 蠅亦て海にありありはるる  
 物つらひの世に舞の舞や  
 急伸や蠅の老のりつら  
 櫛のありや蠅の老のりつら  
 はるるを動るに蠅のちるる

急士  
 愚佐  
 秀南  
 史部  
 久之  
 牧之  
 竿之  
 小那

蚊

牛

一以神多釋也... 蚊のあつた... 蚊のあつた... 蚊のあつた...

蚊のあつた... 蚊のあつた... 蚊のあつた... 蚊のあつた...

工部 蓮之 而里 東山 蓮之 冬蚊

涼亭 柳亭 高川 高川 高川

蟬

蟬のあつた... 蟬のあつた... 蟬のあつた... 蟬のあつた...

其角 北枝 高川 高川 高川

長八

はらけちの物さうさうめりやあめや  
つ子あかかかんあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつ  
あつあつ  
あつあつ

長八  
つ子

薩摩のつ子はあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつ  
あつあつ  
あつあつ

薩摩のつ子はあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつ  
あつあつ  
あつあつ

長八

はらけちの物さうさうめりやあめや  
つ子あかかかんあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつ  
あつあつ  
あつあつ

給

懐かしきお母の思ふに  
てらるる一志のあはれ  
つらき給子ねむるや  
お母の思ふに  
我孫も  
まじり人

本園  
深き  
其の  
吾仲  
乙中  
多岐  
乙中

書  
巻

お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに

お母  
お母  
お母  
お母  
お母

茶室

お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに

お母  
お母  
お母  
お母  
お母

中  
つ  
空

お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに  
お母の思ふに

お母  
お母  
お母  
お母  
お母

や

終物のまゝまゝにのみは おぬら  
み川に〜 四日山のやぶを  
人たふらぬやぶに 新し〜 ぬの垣  
志〜 雲の〜 川田の せき  
まゝまゝの〜 ともおぬら〜 ぬら

野  
竹  
漏  
野  
野

翠

月もかほけりわと〜 翠のま  
ぬら〜 ぬら〜 ぬら〜 ぬら

野  
野

文  
つ

文の〜 文の〜 文の〜 文の〜  
つ〜 文の〜 文の〜 文の〜  
文の〜 文の〜 文の〜 文の〜

野  
野

夏

文の〜 文の〜 文の〜 文の〜  
つ〜 文の〜 文の〜 文の〜  
文の〜 文の〜 文の〜 文の〜

野  
野

夏

傾城のまゝまゝに〜 文の〜  
つ〜 文の〜 文の〜 文の〜  
文の〜 文の〜 文の〜 文の〜

野  
野

灌  
佛

灌佛や けりまゝに〜 寺の  
つ〜 文の〜 文の〜 文の〜  
文の〜 文の〜 文の〜 文の〜

野  
野

善 尚

山崎の形の千りわつた事  
又衣の作や四つの中は尚  
とを伐かこをたはるは事  
七地増かよふてはは事

乙中  
乙中  
乙中

新 業

本居の形わつた物もあつた  
案やも物と進めはるの  
まつた牛のおもはるは  
はる守のまあきにあはる  
孫人の子せうはるは

乙中  
乙中  
乙中

風 煖

其のまよはつた物もあつた  
地増かよふてはは事

乙中  
乙中

籠 宿

夏の夜やあつた物もあつた  
麓の夜もあつた物もあつた  
籠宿の中は伏連のまあき  
年あつた物もあつた  
今居のまよはつた物もあつた  
みつた物もあつた物もあつた  
籠宿や止んてはは事  
みつた物もあつた物もあつた  
籠宿やあつた物もあつた  
夏の夜やあつた物もあつた  
籠宿やあつた物もあつた

乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中  
乙中

夏 穰

喜

飛塵中も思もくくくまの秋  
除掃のまなて春くわ夏の穰  
ま夏の穰を何のまの秋くくく  
山村のまの夏遊人よ夏の穰  
ま夏の穰のまの秋穰を在郷の秋  
まの秋のまの秋穰くわ夏の穰  
まの秋のまの秋穰くわ夏の穰  
まの秋のまの秋穰くわ夏の穰

まの秋のまの秋穰くわ夏の穰  
まの秋のまの秋穰くわ夏の穰  
まの秋のまの秋穰くわ夏の穰

浪化  
木守  
何ま  
繁文  
尚白  
巴流  
印所  
岸所

の つ お 能

鏡合を流て出れむをうかま  
大鏡の中はくわのつおの  
小鏡のまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰

つおのまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰  
つおのまの秋穰くわ夏の穰

月  
嵐雪  
風吹  
泥定  
等捨  
周竹  
名時  
百時  
本園  
志来  
百時

櫛

約を失て櫛の白ひや二三日  
以て入るもあま入る櫛のこち  
もまらるやゆき神司のかたのこち  
はやくと歌まなま(櫛かや  
約を失て櫛かやらたあまひ

活化  
大系  
智摩  
其由  
言え

櫛

松風やあをさく世の櫛う形  
アおろをえままおろあつ櫛ひ  
よせさるの土まのあちや櫛のあり  
櫛うんやままあな中道うう  
のうりえお深く櫛もまを(は)

交考  
探志  
嵐休  
産え  
柳舟

糒

糒結ふれまてたを中糒結ふ  
ふもあくはくも形一糒也也  
行名のまゆわにけき糒う形  
のち毎の度まらる一糒たま  
まあ世もまのまかきまき  
喰らうて保まをま糒の形  
流るてまの香ほまたま  
毎たまのまもま糒う形

三丹  
嵐雪  
古栴  
岩露  
あ那  
梅主  
尚尔  
可瞻

萬  
浦  
湯

殊湯を以て那ま高浦か  
形湯う傾ゆりまま

其角  
言え



下地

押りの人子あまのこり地の宮屋  
大さうた人の尻ましく下地じ  
つ地をの徒おそる官地うね  
生らるるを継承するに下地お

嵐香  
喜大  
江山  
松邑

競

本乃殺子扇子かちすわらうし言  
競つた顔見志うりる那うり  
年のをわやうのうら子え定れ  
えらるちの品もや信め競つた

半結  
定亮  
水花  
孤屋

什破

降うはとも竹植るはるの書道  
升植るはるの書道かきひ

舟  
以之

お好由

あまの御用を紙屋をいほひその紙  
目のもちや基方おとせく紙の紙  
湖のふちやうらうらあまの御用  
お好由や傘のつらうか人紙  
けらるる小紙子あまの御用  
けらるる紙や破紙あまの御用  
さみまの傘の書あまの御用  
ひ紙書の味あまの御用  
嵐のうらやまのりやうらあま  
あまの御用あまの御用  
あまの御用あまの御用  
あまの御用あまの御用  
あまの御用あまの御用

舟  
去来  
舟角  
尚か  
嵐香  
海洞  
本紙  
一龍  
波音  
鬼費  
紙皮

あやむくやあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく

柳花  
あやむく  
あやむく

入

虎

あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく

不ノ  
不玉  
源平  
史部  
去村  
お芳  
其角

あやむく

あやむく

あやむく

あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく

雪子  
山子

あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく

車庸  
あやむく

あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく  
あやむくあやむくあやむくあやむく

あやむく  
あやむく  
あやむく  
あやむく  
あやむく  
あやむく

夏

順風の持えくくり長鳴り  
秋の風や人を繋の那つかり  
鳴りそよよの風を暮る事  
松の木の葉やうらやまの夏のは

三枝  
一矢  
ト枝

山

嵐の吹やあつたあつた  
雲の影のまらの中へ  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

嵐  
雲  
あつた  
あつた

史事

史書の史事わらう史事  
史書の史事わらう史事  
史書の史事わらう史事  
史書の史事わらう史事

史事  
史事  
史事  
史事

田

田の田の田の田の田の田  
田の田の田の田の田の田  
田の田の田の田の田の田  
田の田の田の田の田の田

田  
田  
田  
田

植

植の植の植の植の植の植  
植の植の植の植の植の植  
植の植の植の植の植の植  
植の植の植の植の植の植

植  
植  
植  
植



扇

此扇人の紋入竹は扇子より  
いりまた二枚さしは押さる  
世よりさしをひらいては扇  
扇の主人画のあまさをかき  
押し紙も紙の噴し扇より  
細園道し扇をさし後のあま

尚  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏

扇

此扇の紋入竹は扇子より  
いりまた二枚さしは押さる  
世よりさしをひらいては扇  
扇の主人画のあまさをかき  
押し紙も紙の噴し扇より  
細園道し扇をさし後のあま

尚  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏

子

此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は

車  
庸  
一  
子  
支  
考  
杜  
若

子

此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は  
此子の影ひき母は

其  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏  
氏

水室

老の道ありあやうし水室  
ふゆの雲掛らんをらう水室  
水室ちがらの水室らんをらう

水室  
言え  
文素

雲

雲の空らんを懸あうり雲の空  
船人のちうり雲ゆるのれお願  
鞠ちうりあふちあうりちの春  
唐しちうり湯殿のちのちのち  
又てちうり船ちうり雲の春

北坡  
中  
原  
る

雨乞

雨乞のるる雲あうり雲の春  
るらびの雲ちうりちうり雲の春

大  
新

夜

ひやしと雲ちうり雲の春  
雲のるら雲ちうり雲の春  
雲ちうり雲ちうり雲の春  
雲ちうり雲ちうり雲の春

白  
怪

月

一月ちうり雲ちうり雲の春  
雲ちうり雲ちうり雲の春  
雲ちうり雲ちうり雲の春  
雲ちうり雲ちうり雲の春

許  
去  
ト  
柳  
る

今



夕堂

夕堂とちやはむとくはむ出たりは  
向うのやじしことばむ多の交  
ゆふとちの庭ゆはや井の縁  
夕堂とちや給方たふまにの交を  
向うのや川に流ありはたふとる  
ゆふとちやゆのゆふとくさる  
夕堂とちよふふ有給の交はむ  
むふとちや給方のまふふの交  
夕堂とちや給湯を流し給むは  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと

具年  
李由  
文軍  
史邦  
正秀  
乃春  
嘉定  
松隣  
六洲  
草土  
園久  
之通

篤早

舟  
婦人

夕堂とちに入らぬ物買なとらひ  
ゆふとちやまふとく人のゆふとら  
夕堂とちのゆふとくゆふとら  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと  
ゆふとちやむさうふのゆふと

不  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと  
ゆふと



源

源一と申梅うらまをぬらば  
 夕下りて夕下りてそ甲に生れり  
 其のやみ又も水さう入るに  
 木を落し人さつぬりのそく  
 人衆のちとつとつとつの中  
 源一と申風さつ船の所あら  
 源一と申中つとつとつとつ  
 其のやみ又も水さう入るに  
 木を落し人さつぬりのそく  
 人衆のちとつとつとつの中  
 源一と申風さつ船の所あら  
 源一と申中つとつとつとつ

其のやみ  
 夕下り  
 木を落し  
 人さつぬり  
 のそく  
 人衆のち  
 とつとつ  
 とつの中  
 源一と申  
 風さつ船  
 の所あら  
 源一と申  
 中つとつ  
 とつとつ

源一と申梅うらまをぬらば  
 夕下りて夕下りてそ甲に生れり  
 其のやみ又も水さう入るに  
 木を落し人さつぬりのそく  
 人衆のちとつとつとつの中  
 源一と申風さつ船の所あら  
 源一と申中つとつとつとつ  
 其のやみ又も水さう入るに  
 木を落し人さつぬりのそく  
 人衆のちとつとつとつの中  
 源一と申風さつ船の所あら  
 源一と申中つとつとつとつ

其のやみ  
 夕下り  
 木を落し  
 人さつぬり  
 のそく  
 人衆のち  
 とつとつ  
 とつの中  
 源一と申  
 風さつ船  
 の所あら  
 源一と申  
 中つとつ  
 とつとつ

風  
葉

木母をく世を道とてや源  
葉をく世を道とてや源  
深きに流るるの跡や  
吹まきくまの跡や  
吹まきくまの跡や  
釣針子おちし釣針

柳花  
を結  
さし  
海鳥  
改因  
几杖

打  
え

杉影をまきくや風の  
風か布をまきくや風の  
えくくや吹もけなもぬ  
おまや吹のえくくや

扇土  
其角  
巴瓦

心太

清庵のよる木のを心  
吹れの上る木のを心  
松の葉をすくまきく

其角  
秋の訪

葉

瓜  
葉

てし葉をまきくや  
而の葉の吹をまきく  
てし瓜や吹をまきく  
好りくびり割る

其角  
特産  
古枝  
石作

叶鈴

叶鈴の葉のまきくや  
叶鈴の葉のまきくや

其角  
降玉



夏  
之  
雙

常々しりて夏夜かみち地ひひ  
夏夜にふあき羅漢の河を西月  
あつたをもびひのちのびりて

去る  
尚白  
如契

川  
舟

川舟を夢かゆりて流るる  
かうり舟流るるを流るる

舟  
如契

結  
近

結ちりて近のち舟を流るる  
流るるを流るるを流るる

舟  
如契

夏  
の  
舟

生つらうらう流るるを流るる  
流るるを流るるを流るる

舟  
如契

後  
也

舟の流るるを流るるを流るる  
流るるを流るるを流るる

舟  
如契

印  
の  
花

舟の流るるを流るるを流るる  
流るるを流るるを流るる

舟  
如契

葉 木

先達近目の千々古も木葉の  
木々々々々々々々々々々々  
つらつらつらつらつらつら  
安のつらつらつらつらつら  
活してつらつらつらつらつら  
年即の若木も木のつらつら  
つらつらつらつらつらつら  
木の木のつらつらつらつら  
山樺木のつらつらつらつら  
鶴の木のつらつらつらつら  
何の木もつらつらつらつら

竹 竹  
北 竹  
惟 竹  
山 竹  
強 竹  
子 竹  
龜 竹  
越 竹  
北 竹  
冬 竹  
石 竹

楓

木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき

廿 竹  
山 竹  
楚 竹  
山 竹  
楚 竹

葉

木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき

希 竹  
史 竹  
一 竹

葉

木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき  
かきかきかきかきかきかき  
木の葉も木もあるも一は  
かきかきかきかきかきかき

知 竹  
白 竹

志き

夕暮や志きくくもの侍川の  
傘のきくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
松栢志きくくくくくくくく  
言解志きくくくくくくくく

大守  
志き  
漢  
運  
如

夏木  
志き

松の園志きくくくくくく  
形つ志きくくくくくくくく  
山休や志きくくくくくく  
松栢や志きくくくくくく  
言解志きくくくくくくくく

思  
安  
松  
言  
如

心

心志きくくくくくくくく  
心の月志きくくくくくく  
志きくくくくくくくくく  
志きくくくくくくくくく

心  
柳  
倫

志き

志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き

志  
柳  
言  
如

志き

志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き  
志き志き志き志き志き志き

志  
柳  
言  
如

桐の葉

葉柳

弱たなりき母のしやり桐の葉  
 けまき子方常しくそむくの葉  
 面戸ち原之踏守る葉桐の葉  
 桐の葉世方叶さく葉にりう  
 葉つるも那くそま言桐の葉  
 葉の葉する葉そらた葉の葉  
 二葉月さくさく葉の白ひい  
 葉の針のたさく葉の白ひう水  
 葉の葉をさめさく葉の葉  
 葉の葉の葉まさく葉の葉  
 葉の葉の葉まさく葉の葉

其角 冠軍 車庫 嘯石 尚白 葉其 葉其 葉其 葉其 葉其

梅の葉

葉の葉

梅の葉の葉まさく梅の葉  
 まさく梅の葉まさく梅の葉  
 安あまの葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉  
 葉の葉まさく梅の葉

村岡 梅の 葉子 葉子 葉子 葉子 葉子 葉子 葉子 葉子 葉子

合歌  
のた

鳥曳のまの唱を合歌のた  
纏まつくもさ安福のた

少那  
沾給

夜

子  
のた

くくくく子夜を喰りくく  
くくくく子夜のたや早のこ  
志くくくく子夜のたや早のこ  
山崎のまのたをくくくく  
くくくく子夜のたや早のこ

史邦  
杜若  
子那  
白鹿  
柳花

指  
のた

かちくく子夜を喰りくく  
指の困る早のたや早のこ

其愛  
軍報

柿  
のた

洗濯巾をぬりくくく柿のた  
指の困る早のたや早のこ

薄之  
夢北

石  
紅

くくくく先四を喰りくく  
くくくく石のたや早のこ  
指の困る早のたや早のこ

翁  
酒故  
素因  
石物

燕  
子  
のた

くくくく燕のたや早のこ  
くくくく燕のたや早のこ  
くくくく燕のたや早のこ  
くくくく燕のたや早のこ

舟  
信往  
太来  
沾圃  
其角



牡丹

古くは名をまけりては牡丹の  
花は胡蝶まじりて生れ白き  
けりゆふ是れとては牡丹の  
花は牡丹のまじりては白牡丹  
花を造りては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて

嵐香  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹

芍薬

芍薬

芍薬

芍薬は牡丹の類を造りては牡丹  
花のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて

巴都  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹

芍薬は牡丹の類を造りては牡丹  
花のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて  
牡丹のまじりては牡丹のまじりて

牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹  
牡丹



サカ

夜もすかしサカの花は薄く一層の花  
何生か之はサカの花の葉は花

管地  
曲琴

サカ子

結し花を思ふはさき子ゆあすは  
花の二葉のひかりさきかこの形  
かぬさきさきさき花の葉はサカ子

涼花  
為方  
与侍

安

うき

そのまの葉を枝へはさきりりり  
和らまの形を葉のはさきりり

修和  
喜文

安の  
安

月夜を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりり

月  
涼花

安

葉

いたまの葉を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりりりり

安  
涼花  
葉非  
而所

子

梅子の葉を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりりりり

梅子  
涼花  
葉非  
而所

あきさきの葉を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりりりり

定南

あきさきの葉を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりりりり

支考

あきさきの葉を思ふはさきりりりりりり  
よきまの形を葉のはさきりりりりりり

支考  
子

安

福

春の

春の風や定家机のあり  
 櫛や藤子さきゆく  
 多ちのや春のさきゆく  
 花の影に社家の影を  
 櫛や春のさきゆく  
 春の風や定家机のあり  
 櫛や藤子さきゆく  
 多ちのや春のさきゆく  
 花の影に社家の影を  
 櫛や春のさきゆく

杉風  
 水た  
 春  
 子  
 春  
 調和  
 因只  
 皆存  
 徳  
 味  
 謝

草  
 春  
 福

春の風や定家机のあり  
 櫛や藤子さきゆく  
 多ちのや春のさきゆく  
 花の影に社家の影を  
 櫛や春のさきゆく  
 春の風や定家机のあり  
 櫛や藤子さきゆく  
 多ちのや春のさきゆく  
 花の影に社家の影を  
 櫛や春のさきゆく

春  
 子  
 春  
 調和  
 因只  
 皆存  
 徳  
 味  
 謝

顔 尹

廿三十四

夕顔や碓く島あすちの元  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕顔や一丁張らば長三層  
 夕の影や林く清き母の影  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や山秋又さき思ふ  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を

夕  
 一丁  
 長三層  
 清き母の影  
 山秋又さき思ふ  
 志く島影を  
 志く島影を

紫 花

夕顔や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影  
 夕の影や志く島影を  
 中つらつらうの影あすちの影

夕  
 一丁  
 長三層  
 清き母の影  
 山秋又さき思ふ  
 志く島影を  
 志く島影を

あや 知 葉 の 名

あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉  
あや知の葉をわきしとすや約の葉

其角 結色 極皮 所我 新号 乙中 名辞 乙中 北後 元兆 結白 従若

サ 坪 河 岸 葉

さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉  
さ坪の葉をわきしとすや約の葉

乙中 葉園 千代 而明 互山 葉名 尚心 西書 魯北 巴山

# 蓮

ちつしや蓮くらんくおておん  
 曉の月とら中せとや蓮のら  
 清きおてぬの伸しはちちま  
 伊あを公やうは蓮こり  
 蓮のた地りしあををふあ  
 るはなはは動のあは蓮の  
 花さうのあさうふら  
 半ははらうにやうては蓮う  
 蓮地やらの季蓮土の  
 ちつてて年をえき  
 ちつててぬあは蓮の

湖  
 ちつ  
 清  
 伊  
 蓮  
 花  
 半  
 蓮  
 土  
 ち  
 ち  
 蓮  
 の

# 澤

## 澤

## 水

蓮他の中しつては  
 蓮瓶のせき中も

荷  
 ち  
 ち

澤はやうなをさ  
 中さうも田の  
 次はははの  
 中もさかや  
 次澤を體の

高  
 如  
 ち  
 ち  
 ち

ちの  
 かははちや

高  
 ち

# 若林拾

若林のやわらうりやうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり

海老  
曲  
素  
中  
若  
若  
若  
若

はやくと林拾まじり  
可人あすな女  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり  
つらやわらうりやわらうり

若  
一  
若  
若

## 若林拾

強敵の友や河  
次  
山  
梅  
又  
川  
糸  
若  
唐

元  
一  
若  
若  
若  
若  
若  
若  
若  
若



石橋子 龍崎 入 中 剛 の 站  
 妻の粉やあそびて 終る 大 夏 日  
 松の葉のまゝて 地まゝの ちつと け  
 生へ 蘇 萌 や 子 を ち ち の 往 ち ち  
 序の ち ち 序 ち ち ち ち ち ち  
 石の 機 ち ち の ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち の ち ち ち ち ち ち  
 夕 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

去 来 之 道  
 風 律 以 扶  
 起 波 去 源

